岡本眸の春の句

雨の香の紙筆におよぶ春の暮

白木蓮にぶつかつて日の渡るなり

見つづけて椿を黒くしてしまふ

わづかなる煮炊に汚れあたたかし

茎立や明日へ跨ることばかり

松岡隆子　抽